

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	福岡財務支局長
【提出日】	平成29年11月14日
【四半期会計期間】	第37期第2四半期（自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日）
【会社名】	株式会社シダー
【英訳名】	CEDAR.Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 座小田 孝安
【本店の所在の場所】	福岡県北九州市小倉北区大島1丁目7番19号
【電話番号】	093 - 513 - 7855（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 寺戸 靖和
【最寄りの連絡場所】	福岡県北九州市小倉北区大島1丁目7番19号
【電話番号】	093 - 513 - 7855（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 寺戸 靖和
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第36期 第2四半期 連結累計期間	第37期 第2四半期 連結累計期間	第36期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (千円)	6,206,287	6,973,061	12,733,681
経常利益又は経常損失 () (千円)	76,055	175,312	136,726
親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期 (当期)純損失 () (千円)	69,598	141,083	137,988
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	70,526	138,296	139,945
純資産額 (千円)	957,914	1,029,792	888,495
総資産額 (千円)	17,462,845	18,375,647	18,043,252
1株当たり四半期純利益金額又は1 株当たり四半期(当期)純損失金額 () (円)	6.06	12.29	12.02
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	5.5	5.6	4.9
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	304,742	538,176	604,836
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	202,293	317,255	1,133,714
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	20,525	85,000	451,583
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	840,032	816,734	680,814

回次	第36期 第2四半期 連結会計期間	第37期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額 () (円)	4.92	4.30

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3 第37期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第36期第2四半期連結累計期間及び第36期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、平成29年4月に、当社は、給食事業を営む味屋フーズ株式会社を設立し、同社を連結子会社といたしました。この結果、当社グループは、当社及び子会社2社により構成されることとなりました。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社、以下同じ。）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策を背景に、企業収益や雇用環境の改善傾向が続くなかで、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、海外においては、新興国経済の下振れによる懸念や英国のEU離脱問題、米国の新政権の政策等の影響による海外経済の不確実性の高まりにより、景気の先行きについては不透明な状況が続いております。

介護サービス業界においては、高齢社会の進行に伴い、介護サービスの需要は一層拡大することが予想されます。一方、平成27年度介護保険法が改正され、介護報酬の引き下げにより、サービスの質の向上及び人材の確保が経営上の最重要課題となっております。また、平成29年度の介護報酬改定では、介護人材の処遇改善について、職場定着の推進、介護サービス事業者等による昇給や評価を含む賃金制度の整備・運用状況などを踏まえ、事業者によるキャリアアップの仕組みの構築を促すため、更なる加算の拡充が行われております。

このような状況のもと当社グループにおきましては、収益面では、主に前事業年度に開設した施設において、新規利用者の獲得と充実したサービスを提供すること等、施設稼働率の向上に努めました。利益面では、労務費を中心としたコスト管理を徹底してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は6,973,061千円（前年同四半期比12.4%増）となり、営業利益は316,528千円（前年同四半期比488.1%増）、経常利益は175,312千円（前年同四半期は経常損失76,055千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は141,083千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失69,598千円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

デイサービス事業

当セグメントにおきましては、既存デイサービス施設のサービスの質の向上により施設稼働率の向上に努めてまいりました。その結果、売上高は1,790,725千円（前年同四半期比5.5%増）、セグメント利益は265,814千円（同28.9%増）となりました。

施設サービス事業

当セグメントにおきましては、既存有料老人ホームの入居者獲得に注力し、入居率の向上に努めました。その結果、売上高は4,713,290千円（同15.6%増）、セグメント利益は493,101千円（同93.3%増）となりました。

在宅サービス事業

当セグメントにおきましては、利益率の改善のため人員配置や業務手順の見直し等、効率的な運営に取り組むことに注力してまいりましたが、売上高は437,704千円（同5.9%増）、セグメント損失は30,072千円（前年同四半期はセグメント損失27,753千円）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べて135,920千円増加して816,734千円となりました。また、当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果、獲得した資金は538,176千円（前年同四半期比76.6%増）となりました。その主な内訳は、収入要因として、税金等調整前四半期純利益175,312千円、減価償却費303,281千円、支出要因として、売上債権の増加額168,630千円であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果、使用した資金は317,255千円（同56.8%増）となりました。その主な内訳は、支出要因として、有形固定資産の取得による支出312,447千円、預り保証金の返還による支出55,105千円、収入要因として、預り保証金の受入による収入61,635千円であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果、使用した資金は85,000千円（同314.1%増）となりました。その主な内訳は、支出要因として、短期借入金の返済による支出1,320,000千円、長期借入金の返済による支出324,964千円、収入要因として、短期借入れによる収入800,000千円、長期借入れによる収入830,000千円であります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因に変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	11,476,000	11,476,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	11,476,000	11,476,000		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年7月1 日～平成29年9月30 日	-	11,476,000	-	432,280	-	308,030

(6) 【大株主の状況】

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
高齢社会戦略1号 投資事業有限責任組合	東京都千代田区永田町1-11-30	3,901	34.00
山崎 嘉忠	福岡県北九州市小倉南区	2,915	25.40
有限会社タチバナ	福岡県古賀市青柳町362-1	829	7.22
シダー取引先持株会	福岡県北九州市小倉北区大島1-7-19	591	5.15
座小田 孝安	福岡県北九州市若松区	574	5.00
シダー従業員持株会	福岡県北九州市小倉北区大島1-7-19	209	1.82
日本トラスティ・サービス信 託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	101	0.88
大中 佳文	福岡県福岡市東区	80	0.69
中濱 眞二	兵庫県三田市	65	0.56
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1-6-1	51	0.45
計	-	9,320	81.21

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,475,300	114,753	-
単元未満株式	普通株式 700	-	-
発行済株式総数	11,476,000	-	-
総株主の議決権	-	114,753	-

(注)「単元未満株式」の欄の普通株式には、当社所有の自己株式86株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	680,814	816,734
売掛金	2,159,170	2,327,800
その他	297,982	296,135
貸倒引当金	2,115	1,914
流動資産合計	3,135,851	3,438,756
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,677,481	5,278,906
土地	2,193,676	2,204,476
リース資産(純額)	4,520,003	4,454,605
その他(純額)	699,430	179,551
有形固定資産合計	12,090,592	12,117,539
無形固定資産		
投資その他の資産	71,571	66,983
敷金及び保証金	2,196,762	2,211,452
その他	551,106	543,250
貸倒引当金	2,632	2,335
投資その他の資産合計	2,745,236	2,752,367
固定資産合計	14,907,401	14,936,890
資産合計	18,043,252	18,375,647

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	241,697	214,130
短期借入金	3,320,000	2,800,000
1年内返済予定の長期借入金	652,048	719,256
未払法人税等	56,850	91,355
賞与引当金	182,521	228,641
その他	878,412	1,037,742
流動負債合計	5,331,529	5,091,126
固定負債		
長期借入金	5,112,003	5,549,831
リース債務	5,417,856	5,379,276
退職給付に係る負債	333,360	353,473
その他	960,008	972,148
固定負債合計	11,823,227	12,254,728
負債合計	17,154,757	17,345,854
純資産の部		
株主資本		
資本金	432,280	432,280
資本剰余金	308,030	308,030
利益剰余金	148,302	289,386
自己株式	16	16
株主資本合計	888,596	1,029,680
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	100	50
その他の包括利益累計額合計	100	50
非支配株主持分	-	162
純資産合計	888,495	1,029,792
負債純資産合計	18,043,252	18,375,647

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	6,206,287	6,973,061
売上原価	5,727,979	6,182,660
売上総利益	478,308	790,400
販売費及び一般管理費	424,485	473,871
営業利益	53,823	316,528
営業外収益		
受取利息	6,097	5,746
受取賃貸料	6,479	6,681
その他	9,885	7,682
営業外収益合計	22,463	20,109
営業外費用		
支払利息	147,301	161,045
その他	5,040	280
営業外費用合計	152,341	161,326
経常利益又は経常損失()	76,055	175,312
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	76,055	175,312
法人税、住民税及び事業税	16,211	50,137
法人税等調整額	22,668	13,071
法人税等合計	6,456	37,066
四半期純利益又は四半期純損失()	69,598	138,246
非支配株主に帰属する四半期純損失()	-	2,837
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失()	69,598	141,083

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	69,598	138,246
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	928	50
その他の包括利益合計	928	50
四半期包括利益	70,526	138,296
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	70,526	141,134
非支配株主に係る四半期包括利益	-	2,837

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失()	76,055	175,312
減価償却費	288,744	303,281
貸倒引当金の増減額(は減少)	868	200
賞与引当金の増減額(は減少)	60,909	46,120
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	18,317	20,185
受取利息	6,097	5,746
支払利息	147,301	161,045
売上債権の増減額(は増加)	111,397	168,630
仕入債務の増減額(は減少)	26,915	27,567
その他	125,991	194,135
小計	475,497	697,937
利息の受取額	839	736
利息の支払額	147,056	160,917
法人税等の支払額	24,538	6,452
法人税等の還付額	-	6,873
営業活動によるキャッシュ・フロー	304,742	538,176
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	136,561	312,447
無形固定資産の取得による支出	9,583	9,362
敷金及び保証金の差入による支出	54,495	2,123
敷金及び保証金の回収による収入	781	297
預り保証金の返還による支出	38,037	55,105
預り保証金の受入による収入	49,530	61,635
その他	13,928	148
投資活動によるキャッシュ・フロー	202,293	317,255
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,600,000	800,000
短期借入金の返済による支出	1,400,000	1,320,000
長期借入れによる収入	250,000	830,000
長期借入金の返済による支出	406,701	324,964
非支配株主からの払込みによる収入	-	3,000
リース債務の返済による支出	63,820	72,945
配当金の支払額	4	91
財務活動によるキャッシュ・フロー	20,525	85,000
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	81,923	135,920
現金及び現金同等物の期首残高	758,108	680,814
現金及び現金同等物の四半期末残高	840,032	816,734

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、味屋フーズ株式会社を設立したことに伴い、新たに連結の範囲に含めておりません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
給料手当	112,145千円	132,586千円
租税公課	101,706	128,523

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の範囲と現金及び預金勘定は一致しております。

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)

配当金支払額

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)

配当金支払額

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	デイサービス 事業	施設サービス 事業	在宅サービス 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,697,274	4,075,952	413,367	6,186,594	19,693	6,206,287
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	35,654	35,654
計	1,697,274	4,075,952	413,367	6,186,594	55,347	6,241,942
セグメント利益又は 損失()	206,247	255,060	27,753	433,554	2,567	430,987

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、福祉用具事業等であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	433,554
「その他」の区分の損失	2,567
セグメント間取引消去	17
全社費用(注)	377,146
四半期連結損益計算書の営業利益	53,823

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	デイサービス 事業	施設サービス 事業	在宅サービス 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,790,725	4,713,290	437,704	6,941,721	31,340	6,973,061
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	93,384	93,384
計	1,790,725	4,713,290	437,704	6,941,721	124,724	7,066,445
セグメント利益又は 損失()	265,814	493,101	30,072	728,843	13,194	742,038

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、福祉用具事業等であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	728,843
「その他」の区分の利益	13,194
セグメント間取引消去	221
全社費用(注)	425,287
四半期連結損益計算書の営業利益	316,528

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額()	6円06銭	12円29銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は 親会社株主に帰属する四半期純損失金額() (千円)	69,598	141,083
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利 益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金 額()(千円)	69,598	141,083
普通株式の期中平均株式数(千株)	11,475	11,475

(注) 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。なお、前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月10日

株式会社シダー

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 公認会計士 中野 宏治 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 室井 秀夫 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社シダーの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社シダー及び連結子会社の平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。